

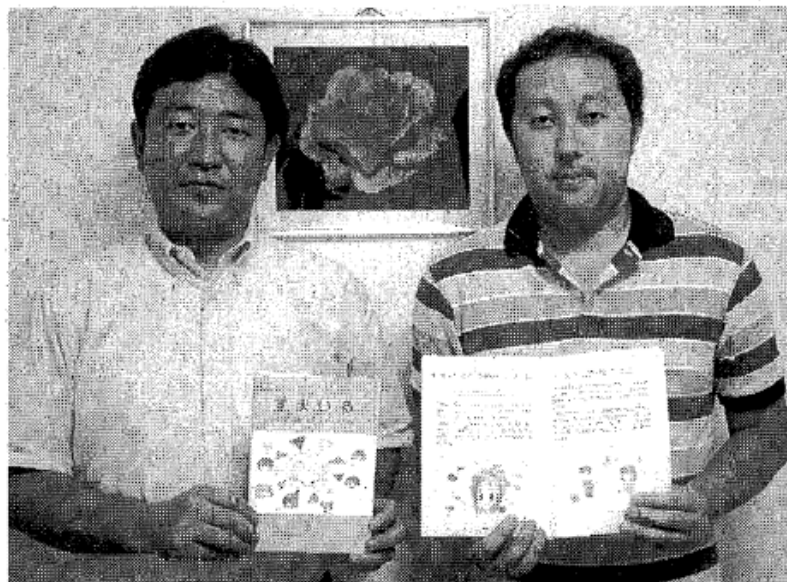
子どもの権利を小冊子に

「あなたは大切な人」

経済的な困窮やドメスティック・バイオレンス(DV)などに苦しんできた母子世帯が暮らす県内の母子生活支援施設が共同で、生きる権利を解説した子ども向けの小冊子「すまいる」を作製した。不安定な生活を続けてきた子どもたちに少しでも安心して暮らしてもらうと、施設や学校での暮らし、将来などについて大切なメッセージを詰め込んだ。

(小林雄二)

県内の母子生活支援施設 1年かけ完成



母子生活支援施設「むつみ荘」の永塚施設長(左)と指導員の阿部さん。同施設には母子20世帯が暮らしている。

「あなたは、この地球にたった一人しかいない、とても大切な人なのです。そんなあなただからこそ、夢や希望を持ち未来に向かって、幸せに生きていく権利を持って生まれてきたのです」

「すまいる」の冒頭にはこんなメッセージが書かれている。ルビが振られて、子ども一人でも読める。A5判二十六ページの小冊子だが、県内七施設の職員が集まり、丸一年かけて完成させた。

母子生活支援施設は、DVなどに苦しんできた母子が避難し、生活を立て直す場所。追い詰められてパニック状態で入所するケースも多い。

県南部の同施設「むつみ荘」の永塚博之施設長

は「四世は「たたかれて育った子どもは泣けないし、助けも呼べない。男の人みんな暴力を振るう」と思っている母親も多い」と、母子が抱える傷の深さを説明する。

小冊子は「権利ってなんだろ」から始まり、「困ったことがあったら一緒に考えようね」「知りたいとおもう気持ちは大切にされるよ」などのメッセージが続く。カラフルな子どもたちの絵も添えられている。

作製に参加したむつみ荘職員の阿部敬さん(三宅は「書かれているのは当たり前のこと。その当たり前の権利すら気付いていない子どもが多い。子どもを通してお母さんにも伝わってほしい」と話す。

小冊子は千部作製。母子からの相談を受ける際などに紹介している。小冊子を「すまいる」と名付けた阿部さん。「子どもたちに一番似合っなのは笑顔。自分らしく生きて笑顔を見てほしい」と願っている。